

【新刊のご案内】

柴橋伴夫 ミクロコスモスI 美のオディッセイ

人生の余白を測ってみた。光陰矢の如しである。時は、流星として私の前を瞬時に過ぎていった。のんびりと無為のままではいけないと、気づかされた。意を新たに、これまで書き散らしてきた詩業や評論などを見直すことにした。またできれば未発表や書き下ろしの論も収録しておきたいと考えた。(中略)

みずからの〈掌に無限を捉え〉ることを目指しながら知見を広げつつ、現代詩を編み、また美術作品を評してきた。こんなこともした。かなりの展覧会を自主企画し、状況の活性化を目指してきた。

まさに一言でいえば〈一粒の砂に世界〉を見出すことを目指してきたわけだ。とすれば私がここで編む本を「ミクロコスモス」(Mikrokosmos)と名付けてもいいと考えた。いうまでもなく、「ミクロコスモス」とは、小宇宙を指す。こうして全体を「柴橋伴夫 ミクロコスモス」と括ることとした。

第一冊を『美のオディッセイ』とし、その中にI章を「異形の抗あらい」とした。前著『アウラの方へ 美の断章』(未知谷)の「あとがき」で、「次作では、表現者にとって、〈飢餓〉とは何であったのか、そしてその飢餓が、作品を通じてどう〈充足〉してきているのか、眼を凝らしてみたいかねばならない」と書いた。

——まえがきより

柴橋伴夫  ミクロコスモス I

美のオディッセイ

Tomoo Shibahashi Mikrokosmos I



藤田印刷エクセレントブックス

ミクロコスモスI —— 「美のオディッセイ」 / 目次

はじめに——精神の飢餓へ

I 抗いの形象

1. ヴォルスのパリ
2. 混沌としたあがき——ヴォルスの写真
3. 〈青〉の捕囚民——イブ・クラインの肖像
4. 獣性のダダ——工藤哲巳
5. ステラークのパフォーマンス
6. ダダ展始末記

II 藤原瞬——身体気象の彼方へ

1. セクションI 「身体気象」の使徒
2. セクションII 星雲体としての気圏
3. セクションIII アメリカへの行脚
4. セクションIV 古潭村

III タナトスの図像

1. 死を見つめる眼——アンドレア・マンテーニャ
2. 〈死せるキリスト〉をめぐる詩想
3. ロヒールの哀歌
4. みずからを遺棄したエゴン・シーレ
5. アンゼルム・キーファー——知の翼
6. 香月泰男のシベリア
7. 「沖縄戦の図」——丸木位里・丸木俊

IV 眼の胎動

1. 批評事始め
 2. 「ゆいまある」あれこれ
 3. 吉増剛造の「石狩のシーツ」をめぐる
 4. 大野一雄——「石狩の鼻曲がり」
 5. ニライカナイの彼方へ——沖縄の祭儀空間
- あとがきにかえて——みずからの「凍土」をみつめて

貴店番線

発行:藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546

月
日

柴橋伴夫 ミクロコスモスI

美のオディッセイ

冊

定価3,080円(税込) ISBN 978-4-86538-145-0 C0070 ¥2800E

2022年11月24日 第1刷発行
発行所 藤田印刷エクセレントブックス
判型 A5判(310頁)上製本

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで